

2021 AUTOBACS SUPER GT ROUND 7 ツインリンクもてぎ

開催地：ツインリンクもてぎ（栃木県）／4.801km

11月6日（予選）天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：6,100人

11月7日（決勝）天候：晴れ コースコンディション：ドライ 観客数：12,000人



織戸選手がまたも Q1 突破に成功！ 決勝ではバトル繰り広げ、しっかり完走果たす



今年もスーパーGT に apr は 2 台体制で挑み、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」をドライブするのは永井宏明選手と織戸学選手。タイヤは信頼のヨコハマが使用される。

シリーズ第7戦「MOTEGI GT300km RACE」はサクセスウェイトが半減、より正確に言うなら、GT300クラスは獲得したポイントの3倍から1.5倍とされる。したがって、今年ここまで2回入賞を遂げている「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は、12kg 積んでの一戦となるわけだ。

前回のオートポリスでは、織戸選手がQ1を3番手で通過するなど、それまでの好調な流れを汲んでいたが、決勝レースになると一転。バランスの悪化に苦しみ、完走を果たすに留まった。

だが、今回は今年2回目のレースとなるツインリンクもてぎが舞台で、第4戦では8位入賞も果たしている。データは豊富で、あとは季節との合わせ込みがしっかりできれば、今季3回目の入賞も夢ではない。何よりドライバーふたりが、自信を持って臨むことになるだろう。

公式練習 11月6日(土) 9:25~11:10



11月に入ったこともあり、もはや厳しい寒さも覚悟していたのだが、週末のもてぎは天気恵まれ、絶えず強い日差しが注がれていた。実際、公式練習開始時の気温は13度で、路面温度は23度で、セッション中に徐々に上がっていたほどだった。

今回も「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は織戸選手から走行を開始。計測3周目にはもう1分47秒台に入れており、持ち込みのセットは正解だったよう。最初のピットストップで微調整を行った後、セッションベストとなる1分47秒261をマーク。30分ほど経過したところで、永井選手と交代する。

マイレージを稼ぎつつ、永井選手は徐々にタイムを詰めていき、やがて1分48秒950を記録するまでに。その後、織戸選手による再確認が行われ、最後のGT300クラス専有走行で再び走行した永井選手は、気温は26度、路面温度は31度まで上がり、最後は条件がかなり変化していたにも関わらず、自己ベストとなる1分48秒726をマークしていた。公式練習の順位は16番手。この後に行われたFCY（フルコースイエロー）テストにも、織戸選手、永井選手の順で走行し、FCY対応も抜かりなく行うことができていた。

公式予選 Q1 11月6日(土) 14:38~14:48



今回の公式予選 Q1 において、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は B 組での走行。織戸選手に今回も Q1 突破の任が託された。気温は 18 度、路面温度は 29 度と、公式練習で織戸選手がベストタイムを記録した時と、ほぼ一緒ということもあり、コンディションは整えられた格好だ。ウォームアップは入念に行われ、アタックは計測 3 周目から。まずは 1 分 46 秒 847 を記録した織戸選手は、さらにワンアタック。1 分 47 秒 767 に短縮なったことで、8 番手で Q1 突破に成功！今回も Q2 に控える永井選手にバトンをつなぐこととなった。

公式予選 Q2 11月6日(土) 15:13~15:23

永井選手の力走が期待された Q2 だったが、残念ながら走行は許されなかった。Q1 後に発覚した、電気系トラブルの修復が間に合わなかったためだ。そのため、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は決勝に 16 番手から望むことになったが、入賞目指し、その後はしっかり準備が整えられていた。

永井宏明選手

クルマのトラブルで出られなかったので、残念でした。

でも、織戸さんが Q1 通ってくれました。公式練習の感触は悪くありませんでしたし、決勝はみんなでいいレースができるように頑張ります。

織戸学選手

なんとか決勝は 16 番手からスタートで、頑張ります。

僕の時 (Q1) では問題なかったんですけどね。今ある中ではベストな走りが出せたと思うんですが、もうちょっとコンディションに合わせたかったです。

決勝は頑張ります。

金曾裕人監督

Q1 は織戸選手のナイスアタックで、さすがの一言ですね。

やっぱり全体のウェイトが軽くなってくると、プリウスというクルマのボディの違い、空力の違いっていうのがあからさまに出ちゃうんですけど、よく頑張ってくれました。

永井選手が走れなかったのは、電気系トラブル。その修復が間に合わなかったのは、非常に申し訳なく思います。

でも決勝では確実にポイントを、今年初めてポイントを獲得したサーキットですし、同じようにここでポイント獲れるように、みんなで全力を尽くそうと思っています。

決勝レース（63 周） 11 月 7 日（日） 13:00～



日曜日のもてぎも、引き続き好天に恵まれた。決勝に先駆けて行われたウォームアップでは、スタートを担当する織戸選手からの走行となり、まずは 1 分 51 秒 434 をマーク。8 分ほど経過したところで永井選手と交代し、コンスタントに周回を重ね、1 分 51 秒 224 をここでのベストタイムとしていた。

そして迎えた決勝レース。スタートダッシュ良く、織戸選手はオープニングラップのうちにひとつ順位を上げて 15 番手でレースを発進。2 番手を走行していた車両がリタイヤしたため、6 周目にはひとつ順位を上げる。その後、2 度の FCY 提示があるも、後方でのアクシデントということもあり、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」はポジションキープで、その後も周回を重ねつつ、23 周目にはずっと連なって走行していた車両を抜くことにも成功する。

その頃からピットに入る車両が相次ぐ中、織戸選手はなおもコースにステイ。ほぼ折り返しの31周目に予定どおり永井選手と交代する。全車ドライバー交代を済ませた時の「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は19番手。それから間もなくしてバトルモードに突入するのだが、前を行くのは本山哲選手で、後ろを行くのは荒聖治選手。



荒選手にはかわされてしまうも、逆に本山選手を46周目に抜き去る得難い経験は、きっと今後の永井選手にとって大きな糧となることだろう。52周目と58周目にオーバーテイクを重ねた結果、「#30 TOYOTA GR SPORT PRIUS PHV apr GT」は16位でフィニッシュ。惜しくも入賞は果たせなかったが、多くの収穫を得たレースともなっていた。

残す戦いは、もう最終戦だけとなった。富士スピードウェイを舞台に11月27～28日に開催される一戦は、全車ノーウェイトでの戦い。集大成のレースとなることが期待される。

永井宏明選手



マシンバランスは悪くは無かったのですが、想定以上に路面温度が上昇し、選んだタイヤがもう少し違うレンジだったら結果は変わってました。

天候だけは仕方がない要素で、読みが外れた感も否めないのですが、トップドライバーとのバトルは本当に気持ちよかったですし自信にも繋がりました。

最終戦の富士は僕も得意ですし、PHV とのラストレースにもなりますので全力を尽くします。

ご期待ください！！

織戸学選手



できれば 10 位以内でチェッカーを受けたかったのですが、今日のコンディションの中ではベストレースだったかと思います。

最終戦の富士は最高速勝負的なところもあるので 1 km/h でも延びるセットをエンジニアと考えるポイントを獲得、チームとしてPHVとして有終の美を飾りたいです。

金曾裕人監督



作戦的にまだやりようがあったかもしれませんが、基本的にクルマとタイヤのバランスの進化過程がまだあるかな、という感じではありました。でも、ベストレースだったと思います。

アベレージ的にもそれなりにしっかり走れました。

少し探りながらまだやっているところがあったのは反省で、事前にここでテストをやっているわけではなかったのも、分からないことがちょっと多かったです。

最終戦の富士は、我々のホームコースですし、最も得意とするコースです。

しっかり結果を残してシーズンを締めたいと思います。

